

2025 年 5 月 17 日

JLA 加盟クラブ各位

日本ライフセービング協会
ライフセービング教育本部

2025 年度 ジュニアライフセービングプログラム助成事業のご案内
～子ども達への水辺の安全教育プログラムの推進事業～

【概要】

学習指導要領改訂により水泳運動の領域に「安全確保につながる運動」が明記され、Water Safety 教育を取り入れる教育機関が増えつつある。このようにライフセービング教育の重要性が広く認識されながらも、全ての子どもたちがその機会を得られていない現状がある。それを改善するため、ライフセービング教育本部では「全てのライフセービングクラブでジュニアライフセービングプログラムの導入」を目標としている。

本事業では、その目標を達成する手立ての 1 つとして、今までジュニアライフセービングプログラムの実施を希望するものの、器材や指導ノウハウに課題を抱えるクラブに対し支援を行う。支援を行うことで、各地域における Water Safety 教育の強化と、次世代の健全な青少年の育成に貢献することをめざす。

本事業では、以下の 3 点を通じてジュニアライフセービング教育の質の向上を図ります。

1. 各クラブの実践を通じて、ジュニアライフセービングプログラムの体系的な実施と運営について共有を図る。
2. 教育本部委員が支援に入り、計画・実施をサポートし、状況を記録する。
3. 指導者アンケートと参加者アンケートを実施し、効果測定と課題抽出を行う。

実施目標: 全国 10 クラブでジュニアライフセービングプログラムを開催し、延べ 500 人の参加をめざす。

成果物: 各地域クラブによる e-Lifesaving 導入プログラムの実地調査報告書を作成する。

【申請区分】

1. Water Safety 教育支援型

(今までジュニアライフセービングプログラムの実施をしたいが、実施の経験が少なく、運営や指導方法について学びたいクラブ向け)

- ・助成対象クラブ数：5 クラブ
- ・実施対象期間：支援器材到着後（目安：2025 年 7 月 1 日(火)）～2025 年 9 月 30 日(火)
- ・教育本部委員が指導のサポートをし、助成対象クラブは事前準備、指導、事後の対応をおこなうものとする。

2. 通年支援型

(年間を通してジュニアライフセービングプログラム(夏と夏以外を含む2回以上)を実施しようとしているクラブ向け(実施しているクラブも含む))

- ・助成対象クラブ数：5クラブ
- ・実施対象期間：助成決定通知後～2025年12月31日(水)
- ・事前、事後の対応、当日の指導は助成対象クラブがおこなう。

【申請条件】

1. 申請時に2025年度JLA加盟クラブであり、団体登録と登録費支払いが完了していること。
2. ジュニアライフセービングインストラクター、ジュニアライフセービングアシスタントインストラクター、リーダーのいずれかの資格を持つ指導員が指導する体制であること。該当者がいない場合は、プログラム実施前または実施後にリーダー講習会または、指導員養成講習会を受講すること。
3. プログラム事前・事後に当委員会が開催するヒアリングに参加できること。(助成決定通知後、日程調整)
4. 当該ジュニアライフセービングプログラムへの当委員会による実地調査を受け入れできること。(助成決定通知後、日程調整)
5. ジュニアライフセービングプログラムに関するアンケート調査(参加者・保護者・助成クラブ向け)に協力できること。
6. 過去3年以内に本事業助成を受けていないクラブであること。
7. プログラムの指導に当たる際は、原則2020年以降のJLA公式パトロールユニフォームを着用すること。
8. 当委員会主催の報告会「ジュニアライフセービングクラブハウス(オンライン開催)」での発表に協力できること。(任意)

【器材支援内容】

	Water Safety 教育支援型	通年支援型
1)ライフジャケット	20着	20着
2)ジュニア用タンクラッシュガード	20枚	20枚
3)ジュニア用キャップ	20枚	20枚
4)津波フラッグ	1枚	1枚
5)ジュニアライフセービングかるた(A4)	1セット	1セット
6)掲出用ポップアップバナー	1セット	1セット
7)ジュニアライフセービングテキストブック	50部	50部
8)水辺の安全啓発用クリアファイル	50部	50部
9)水辺の安全啓発リーフレット	50部	50部
10)ニッパーボード	—	2本
11)ジュニア用フルウェットスーツ	—	20着

【企画必須内容】

1. 水辺において、ライフジャケットを活用したプログラムを実施し、子どもたちの命を守るための Water Safety の意識と技術を育成する。
2. Water Safety やライフセービングに関する子どもの理解度や発育発達段階に合わせた取り組みを体系化し、活動をより継続的なものにするため、JLA ジュニアライフセービングバッジテストを活用したプログラムの運営を企画する。
3. 海浜活動中の地震、津波、避難のフローを各地の防災マップに基づき、シミュレーション訓練等を実施する。避難の重要性や避難経路、避難場所までの道のりを体験から学ぶことで、防災に対する意識を高める。また、津波フラッグへの周知を図ることで、海浜活動への安全知識と実践的行動を理解する。
4. e-Lifesaving を事前学習、もしくは事後学習にて使用し、プログラム全体の学びの質の向上や、安全にプログラムを実施するために活用する。
5. 夏季以外の季節でもウェットスーツを着用して、水辺で活動する年間を通したジュニアライフセービングプログラム（夏季と夏季以外で合わせて2回以上実施）を企画する。（通年支援型のみ）

【申請方法】

電子メールにて申請（E-mail: education@jla.gr.jp）

- ・メールの件名: 「【クラブ名】 日本財団ジュニア助成」
- ・フォーム入力、提出書類締切: 2025 年 6 月 9 日(月) 23:59 受信分まで

☐2025 年度ジュニアライフセービングプログラム助成事業申請フォーム

<https://forms.gle/ZLagMgh6KpdqarKq6>

☐2025 年度ジュニアライフセービングプログラム助成事業企画提案書

☐2025 年度ジュニアライフセービングプログラム助成事業指導案



【選定方法】

企画提案書に基づき、JLA 教育本部委員による書類選考を実施する。

（評価の詳細は開示しない、助成決定通知は6月下旬を予定）

1. 評価は、申請の内容を加味しながら、項目ごとにそれぞれ「絶対評価」にて行うものとし、5段階にて行う。評価者が各々評価した採点結果の合計を平均したものを評価点とする。
1. 評価基準 大変優れている=5/優れている=4/普通=3/やや劣っている=2/劣っている=1 点

【事業完了報告書について】

助成決定通知後、対象クラブには報告書の書式をメールにてご案内いたします。

報告書の内容につきましては、事前ヒアリングにて説明いたします。

電子メールにて申請（E-mail: education@jla.gr.jp）

- ・メールの件名: 「【クラブ名】 日本財団ジュニア助成 報告書」
- ・提出書類
 - ☐2025 年度ジュニアライフセービングプログラム助成事業報告書
- ・事業終了後 **14 日以内** に提出
- ・最終締切

- ・ Water Safety 教育支援型：2025 年 10 月 14 日（火）23:59 受信分まで
- ・ 通年支援型：2026 年 1 月 13 日（火）23:59 受信分まで

【その他】

申請等に関わる個人情報は、本事業における連絡業務に使用し、その他の目的では一切使用しません。

【お問い合わせ先】

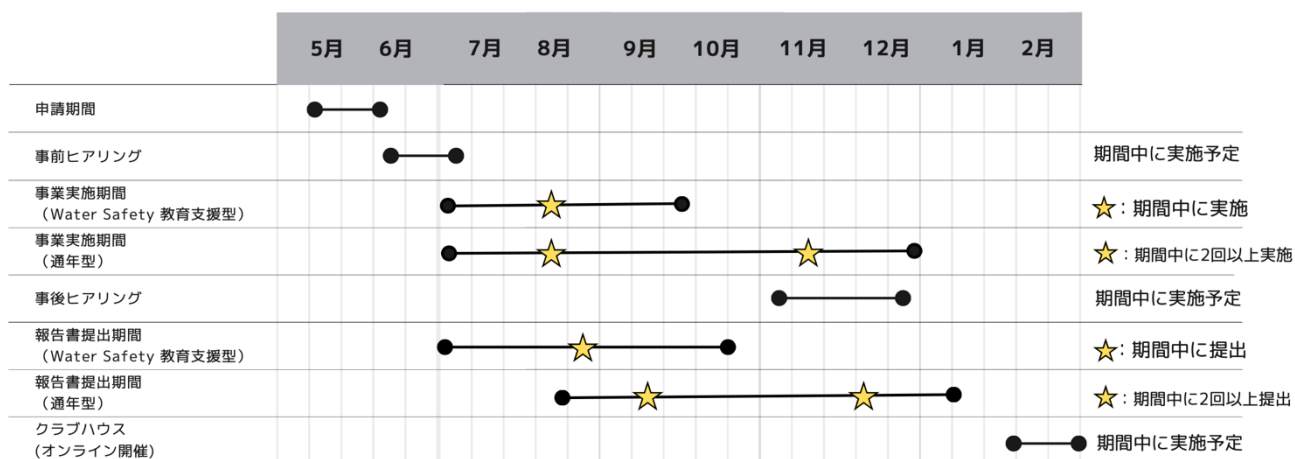
日本ライフセービング 協会 事務局

〒105-0022 東京都港区浜松町海岸 2 丁目 1-16 鈴与浜松町ビル 7 階

TEL:03-6381-7597(電話対応時間 12:00～18:00)

E-mail:education@jla.gr.jp

【スケジュール】



【添付書類】

別紙 1：①2025 年度ジュニアライフセービングプログラム助成事業企画提案書

別紙 2：②2025 年度ジュニアライフセービングプログラム 指導案

2025 年度ジュニアライフセービングプログラム助成事業申請フォーム



<https://forms.gle/ZLagMgh6KpdqarKq6>



津波避難タワーを活用した防災教育例

写真左：ライフセーバーによる津波避難タワーを活用した津波フラッグ掲出のデモンストレーション。

写真右：津波避難タワー上で防災教育を実施。子どもたちはライフジャケットを着用した状態で砂浜から津波避難タワーまでの避難訓練を体験。



ジュニア用ラッシュガードのデザイン

※上記デザインは、変更になる可能性があります。



掲出用ポップアップバナー

※屋外屋内問わず、簡単に掲出が可能です。



ジュニア用ライフジャケット

※メーカーやデザインは、変更になる可能性があります。



ジュニアライフセービングかるたを、砂浜で遊べる『ビーチかるた』（ビーチフラッグス方式）様に加工します。海が苦手な子どもでも砂浜で楽しめる種目として、ライフセービングのイベントや、プログラムの確立（名物化）を目指します。ビーチかるたの基本ルールや、安全上の留意点も配布します。

Keep Watch 子どもから目を離さない

家庭用プールでも「溺れる」リスクがあります。水辺の事故を防ぐため、必ず大人が目を見守り、手の届く範囲で見守りましょう。



子どもだけで遊ばせておくことはもともと危険です。忙しくても、子どもから目を離さないようにしましょう。



溺れる時は、静かに溺れることが多く、動かない子どもは、不自然な動きに注意しましょう。

イラスト：児童安全指導員協会イラスト集より

入水している子どもがいる時に、目を離した他の作業、携帯電話操作をすることなどにより、子どもの異常を見逃すことがあってはいけません。

e-Lifesaving 水辺で自分の身を守る方法を学ぶ専門サイト＜無料＞



水辺の事故ゼロをめざすために、ご寄付をお願いいたします。

ご寄付（金額）は任意です。お名前（お名前）は、お名前（お名前）の記載は不要です。



公益財団法人日本ライフセービング協会



海やプールでおぼれない！ 水辺の安全 10ヶ条

水辺に向かう前に



気象や遊泳情報を知る
お出かけの日の気象状況と、泳ぐ場所の気象情報、泳ぐ場所の水深などの情報を事前に確認しましょう。



危険な場所を知る
入水前に、泳ぐ場所の水深、浅瀬や岩場など安全に関する情報を事前に確認しましょう。



自分で自分を守る
泳ぐ場所やライフジャケット、救命圈などの安全グッズを事前に確認しましょう。



足の届くところで遊ぶ
泳ぐ場所の水深、浅瀬や岩場など安全に関する情報を事前に確認しましょう。



休憩をしっかりとる
長時間の泳ぎで体力が消耗する場合は、休憩をとりながら泳ぎましょう。



飲んだら泳がない
アルコール飲料を飲んだからの入水は絶対にやめましょう。



避難経路を確認する
泳ぐ場所や浅瀬に備えて、避難経路や救命圈タワーなどを事前に確認しましょう。



風や潮の流に流されない
泳ぐ場所の水深、浅瀬や岩場など安全に関する情報を事前に確認しましょう。



熱中症対策をする
泳ぐ場所と水分補給を心がけ、すぐに日陰で休める場所を確保しましょう。



Keep Watch目を離さない
一人一人がライフセーバーです。「Keep Watch」子どもから目を離さないでください。

水辺の安全啓発用の A4 サイズのクリアファイルです。水辺の安全 10ヶ条を JLA オリジナルのアイコンで分かりやすくまとめています。

JAPAN LIFESAVING ASSOCIATION